

令和 **7** 年度



# 普及活動成果集

久留米 普及指導センター





# はじめに

県では、福岡県農林水産業・農山漁村振興条例に基づき、令和4年3月に今後5年間の本県農業の道しるべとなる「福岡県農林水産振興基本計画」を策定し、その達成に向けて各種施策を展開しています。

久留米普及指導センターでは、この基本計画に則して普及指導計画を定め、市町、農業協同組合をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー等と連携して普及活動を展開しています。



令和7年度は、2つのプロジェクト課題と14の係課題を設定し、普及活動に取り組んできました。

令和7年は6月末には梅雨明けし、7月から8月は記録的猛暑となり、最高気温30℃以上の真夏日が10月中旬まで見られました。加えて少雨傾向で経過したため、厳しい気象条件下での生産となりました。さらに農業を取り巻く情勢は、担い手の減少や高齢化に加え、肥料・農薬・燃料といった資材費や人件費、輸送費の高騰により、非常に厳しい状況が続いています。

このため、現場の普及活動においても、気象変動に対応した技術の確立や、経営相談会の開催など、生産と経営の安定化に向けて全力で取り組んで参りました。また今後の経営発展に資する「スマート農業」の推進や、担い手の確保・育成対策も実施しました。

この冊子は、これまでの取組みにより令和7年度までに一定の成果が上がったものを取りまとめたものです。いずれも農業者リーダーの皆様や、市町・農業協同組合など関係機関団体との連携活動によって成し得たものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

当センターは、今後とも農業者の皆様の経営の発展、久留米地域農業・農村の振興に向けて職員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和8年3月

朝倉農林事務所久留米普及指導センター長 國武 みどり

# 目次

## 1 普及活動の成果

(1) 農業DXを推進し、生産・販売力を強化	1
(2) 「地域ビジョン」に基づく園芸農業担い手の強化・育成	2
(3) 多様な担い手の育成・定着	3
(4) 大豆「ふくよかまる」及び麦類の安定生産	4
(5) 施設葉菜類の夏季高温対策による生産安定	5
(6) トマト産地の育成	6
(7) 新品目の導入推進と新商品開発による花き産地の強化	7
(8) カキ基幹品種の単収向上と再成園化による産地強化	8
(9) 次世代を担う若手酪農家の育成	9

## 2 トピックス

(1) 鳥獣被害対策を関係機関と学ぶ	10
(2) 集落営農組織の広域連携協定締結	10
(3) 地域一丸で取り組むハウレンソウのべと病対策	11
(4) 久留米地域「あまおう」合同研修会を開催	11
(5) シンテッポウユリの品質向上をめざして	12
(6) 安全安心な果樹生産をめざして	13
(7) 第5回福岡県肉用種牛共進会にて躍進	13

## 3 参考資料

(1) 受賞実績	14
(2) 令和7年の気象	15
(3) 主な展示ほ概要	16
(4) 普及指導センター活動情報一覧	18
(5) 普及指導センターの活動体制	19

# I 普及活動の成果

## I 農業DXを推進し、生産・販売力を強化

実施期間：令和6～8年度

高齢化や後継者不足が進行する中、管内農業の生産力を維持するためには、スマート農業機器等の先端技術を活用した生産の効率化や省力化が不可欠です。そこで、農業DXを推進し、スマート農業技術による生産力強化とマーケットインの視点による販売力強化を図るため、デジタルデータ分析による生産性向上支援やスマート農業機器の実証試験等に取り組みました。

### 対象の概況

支援対象	対象戸数 (うち重点)
JAにじ・JA福岡大城 (城島町) イチゴ部会	107戸 (22戸)
JAみい生産管理 システム導入部会 (コマツ、ミズナ等)	187戸 (36戸)
JAにじカキ・ブドウ・ ナシ部会	719戸 (33戸)
管内水田農業重点対象	4経営体
畜産農家 (酪農・和牛繁殖)	77戸 (3戸)
JAくるめコマツナ 研究会	28戸 (12戸)

### 活動の内容

#### (1) スマート農業技術による生産力の強化

- ・ 環境測定装置を活用したイチゴの生産技術向上支援
- ・ 生産管理システム「あい作」による葉菜類の防除履歴分析と生産技術支援
- ・ 気象観測装置によるデータ収集と果樹栽培支援アプリ導入支援
- ・ 衛星画像データを活用した水稲可変施肥栽培の実証試験
- ・ 畜産モニタリング装置の試験導入支援

#### (2) マーケットインの視点による販売力強化

- ・ 「あい作」を用いたコマツナ出荷予測の実証

#### (3) 関係機関の農業DX情報共有

- ・ スマート農業技術活用事例集の作成

### 成果

#### (1) スマート農業技術による生産力の強化

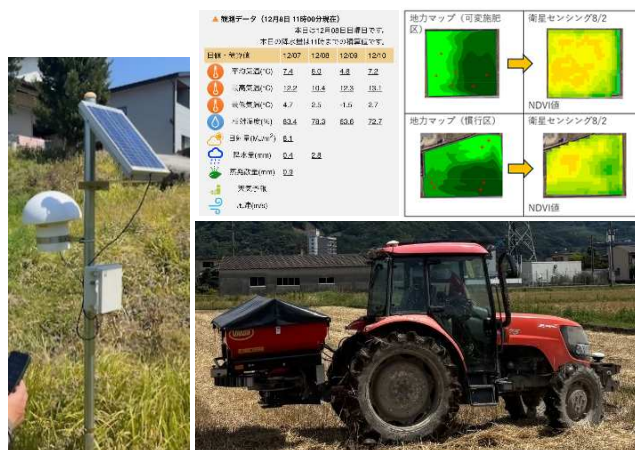
- ・ イチゴ生育期間の環境データを比較し、要点を報告したことにより、9件が目標達成
- ・ 葉菜類の防除履歴分析による効率的な薬剤選定を提案
- ・ 気象観測装置と支援アプリの研修会開催により、果樹12件がアプリ使用開始
- ・ 推定地力データに基づく可変施肥栽培により、水稲の生育の均一化を実証
- ・ 畜産モニタリング装置の特徴を紹介する研修会により1件で試験的導入

#### (2) マーケットインの視点による販売力強化

- ・ 出荷予測のためのデータ収集方法の精査

#### (3) 関係機関の農業DX情報共有

- ・ 事例集提示による情報共有と活用



左：気象観測装置、中央上：気象観測アプリ画面の一部、右上：可変施肥後のセンシング画像、右下：可変装置搭載ワイドスプレッダー

### 今後の取り組み

引き続き、スマート農業技術の効果的な活用方法の提案や現地実証に取り組み、農業DXの推進を図ります。

## 2 「地域ビジョン」に基づく園芸農業担い手の強化・育成

実施期間: 令和5~7年度

野菜や花などの施設園芸や果樹生産が盛んなJAにじ管内でも、生産者の高齢化や担い手の減少が進行しています。

そこで、関係機関と協力し、令和4年度に策定した「地域ビジョン」の一つの項目である「担い手支援」に重点化し、園芸農業の担い手の強化・育成に取り組みました。

### 対象の概況

先進的・中核的担い手	8戸
新規就農者 (技術研修修了者)	8戸(11名)
JAにじ管内の主な 園芸生産部会	トマト (40) イチゴ (47) 花き (95) カキ (449) ブドウ (205)
( )内は部会員数	

### 活動の内容

#### (1) 先進的・中核的担い手の強化

- ・ 個別改善項目に沿った支援を実施
- ・ 新たな労働力確保の手段であるアルバイトアプリについて、利用者を対象に聴き取り調査を実施
- ・ 調査結果をもとに、アプリを活用した雇用を推進するためのリーフレットを作成し、講習会等で周知

#### (2) 新たな担い手の育成・確保

- ・ 関係機関と協議し、研修受入体制を再構築
- ・ 技術研修修了者の早期経営確立支援



関係機関と受入体制について協議する様子

### 成果

#### (1) 先進的・中核的担い手の強化

- ・ 重点支援農家5戸が売上や所得などの個別目標を達成
- ・ 関係機関と連携し推進した結果、7戸の生産者が新たにアルバイトアプリを活用

#### (2) 新たな担い手の育成・確保

- ・ 新たな研修受入体制を整備
- ・ イチゴ、果樹で新たに4戸が就農
- ・ 3戸が青年等就農計画の年度目標を達成



新規就農者に対する個別支援の様子

### 今後の取り組み

担い手の経営改善支援は、引き続き継続して行います。

アルバイトアプリについては、労働力補完として一定の効果がみられるため、今後も関係機関と連携して生産者への導入支援を行います。

新規就農者の受入体制についても、さらに充実した受入体制になるように見直し、拡充を行います。

# 多様な担い手の育成・定着

実施期間:令和6~7年度

高齢化や後継者不足により農業の担い手が減少しているため、新規就農者の確保・定着や経営参画する女性農業者の育成が喫緊の課題となっています。

そこで、新規就農者の確保・定着支援や女性農業者の経営参画推進を行いました。

## 対象の概況

新規就農者 (R4~R6)	101人
青年等就農計画策定者 (R2~R6)	64人
女性農村アドバイザー、OB	52人

## 活動の内容

### (1) 新規就農者の確保・定着

- ・ 新規就農相談会の開催
- ・ 新規就農担当者会議
- ・ 青年等就農計画の策定支援
- ・ 営農基礎講座
- ・ 個別巡回指導
- ・ 新規就農者支援体制の検討

### (2) 女性農業者の育成

- ・ 経営参画研修会
- ・ 個別支援



営農基礎講座 土づくり

## 成果

### (1) 新規就農者の確保・定着

- ・ 新規就農者数
  - 令和6年度 27人
  - 令和7年度 20人
- ・ 青年等就農計画達成率
  - 令和6年度 66%
  - 令和7年度 57%

### (2) 女性農業者の育成

- ・ 新規に経営参画した女性農業者
  - 令和6年度 4人
  - 令和7年度 3人



女性農業者への専門家派遣

## 今後の取り組み

新規就農者の確保・定着に向け、引き続き就農相談会や技術指導を行います。

また、基礎技術研修の開催により、新規就農者の技術習得や女性農業者の経営参画推進を図ります。

## 大豆「ふくよかまる」及び麦類の安定生産

実施期間: 令和5~7年度

管内の耕地面積のうち約8割を占める水田では、米・麦類・大豆が栽培されています。実需者からは生産量・品質の安定が強く求められていますが、特に大豆及び麦類については、近年の天候不順により収量が不安定となっています。

このため、大豆及び麦類については、基本技術（適期播種、排水・乾燥対策、土づくり等）や硬質小麦のタンパク質含有率向上技術等の指導を徹底し、収量・品質の高位安定をめざしました。

## 対象の概況

令和7年産作付面積 (ha)

大豆	1,394
麦類 (うち硬質小麦)	5,181 (1,187)

## 活動の内容

## (1) 大豆「ふくよかまる」の安定生産

- ・栽培展示ほの設置（適期播種、収量）
- ・栽培講習会及び現地指導
- ・栽培情報の提供
- ・わらすき込み推進
- ・個別指導

## (2) 麦類の安定生産

- ・栽培展示ほの設置
- ・栽培講習会及び現地指導
- ・栽培情報の提供
- ・品質分析及び個別指導



麦類の栽培講習会

## 成果

## (1) 大豆「ふくよかまる」の安定生産

講習会や栽培情報での呼び掛け、部分浅耕一工程播種技術の紹介を行うことで適期播種（7/5~20）の意識向上を図りました。その結果、直近7年で過去最高の適期播種率（87%）を達成しました。

## (2) 麦類の安定生産

講習会や栽培情報で、穂揃期追肥の徹底を呼び掛けるとともに、品質改善の必要がある生産者に対して個別指導を実施しました。その結果、3年連続でタンパク質含有率目標値の12.0%を達成しました。また、収量は390kg/10aで昨年より増加し、令和5年産並に回復しました。



部分浅耕一工程播種の様子

## 今後の取り組み

大豆は、収量向上をめざして、引き続き適期播種・防除の推進を行います。

麦類のタンパク質含有率は、全地区の目標値達成をめざして重点指導を行い、品質の高位安定を図ります。

# 施設葉菜類の夏季高温対策による生産安定

実施期間: 令和7~8年度

久留米管内は施設葉菜類の生産が盛んです。しかし、近年は高温による生育障害や病害虫の発生等により、夏季の生産が不安定となっています。

このため、夏季の生産安定のため、夏季高温対策講習会の開催、各種資材等による実証ほの設置、現地検討会、夏季高温対策優良事例調査等を行い、葉菜類経営の安定化を図りました。

## 対象の概況

組織名	戸数	面積
JAくるめ小松菜部会	27戸	16.2ha
JAくるめ青梗菜研究会	6戸	2.0ha
JAくるめサラダ菜部会	12戸	7.8ha
JAみいニラ部会	4戸	8.0ha
JAみい小松菜部会	16戸	34.0ha
JAみいみずな部会	12戸	14.4ha

## 活動の内容

### (1) 夏季の出荷割合

- ・ 夏季高温対策講習会
- ・ 個別巡回指導
- ・ 実証ほ設置
- ・ 現地検討会
- ・ 結果報告会

### (2) 夏季高温対策見直し部会数

- ・ 夏季高温対策状況アンケート調査
- ・ 夏季高温対策優良事例調査
- ・ 夏季高温対策報告会
- ・ 夏季高温対策検討会



夏季高温対策講習会

## 成果

### (1) 夏季の出荷割合

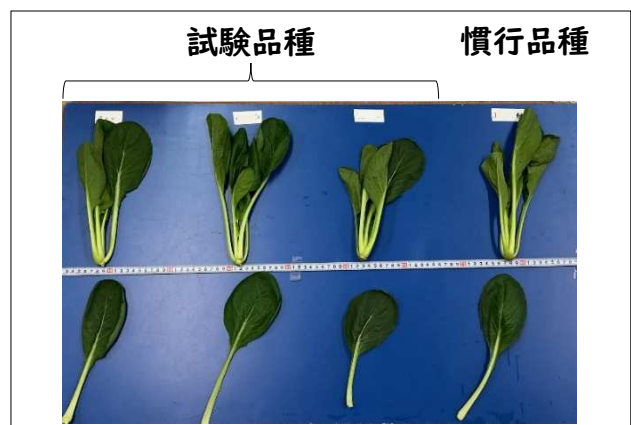
- ・ 夏季(7~9月)出荷割合の増加  
チンゲンサイ 18.4% → 21.0%

チンゲンサイでは、夏季高温対策の重要性を認識し、対策に取り組んだことにより達成しました。

### (2) 夏季高温対策見直し部会数

- ・ コマツナ | (耐暑性優良品種の選定 5品種)
- ・ サラダナ | (バイオスティミュラント資材の活用)
- ・ ニラ | (少量多かん水の実施)

3部会で耐暑性品種、ハウス内温度上昇を抑制する遮熱資材、少量多回数かん水技術、バイオスティミュラント資材の活用に積極的に取り組んでいくことになりました。



耐暑性品種(コマツナ) 実証ほの設置

## 今後の取り組み

引き続き、施設葉菜類の生産安定のため、夏季高温対策に係る講習会の開催、個別巡回を行うとともに、実証ほの設置、現地検討会等を継続します。

# トマト産地の育成

実施期間: 令和5~7年度

近年、久留米管内のトマトでは春先以降の高温により着色不良や日焼け果などの高温障害が発生しています。さらに、秋期の高温で病害虫やウイルス病の発生が多くなり、収量が伸び悩んでいます。また、経費の上昇により経営安定が難しくなっています。

そこで、トマトの収量向上のための栽培技術および経営改善に向けた支援を重点的に行いました。

## 対象の概況

		R5年度実績
JAくるめトマト部会	10戸	210a
JAIにじトマト部会	40戸	1,360a

前回目標未達成者 5名  
R3~R6新規トマト栽培者 4名

## 活動の内容

### (1) 生産量の向上

- ・ 現地検討会・栽培講習会の実施
- ・ 防除対策資料の提供
- ・ 高温対策資料の提供
- ・ 展示ほの設置
- ・ 優良事例調査

### (2) 前回目標未達成者および新規就農者の支援

- ・ 個別重点指導
- ・ 経営相談会の実施
- ・ 栽培チェックシートの作成・活用



現地検討会の様子

## 成果

### (1) 生産量の向上

- ・ 現地検討会・講習会を通じて黄化葉巻病などの病害虫対策の指導を徹底。
- ・ 被覆資材・遮熱剤の展示ほを設置し、その結果を成果情報で産地共有。
- ・ これらの活動により3か年で6戸が目標単収を達成。

### (2) 前回目標未達成者および新規就農者の支援

- ・ 栽培チェックシートによる個別課題の整理と改善策を部会員ごとに共有。
- ・ 経営相談会により栽培技術・経営の取組計画の共有。
- ・ これらの活動により3か年で1戸が改善目標を達成。



経営相談会の様子

## 今後の取り組み

トマト産地の維持・発展のために、引き続き高温や病害虫に対する技術支援を行うとともに、チェックシートによる課題整理や個別巡回による支援を行っていきます。

# 新品目の導入推進と新商品開発による 花き産地の強化

実施期間: 令和5~7年度

久留米管内は、優れた生産技術と育種による商品開発により、有利販売を実現してきた県内有数の花き産地です。近年、需要減少などの厳しい状況に直面する中で、経営の安定、発展に資する新品目（切り枝、草花）の導入を推進し、産地化を図りました。また、実需者に提案できる新商品開発支援とPR支援を通じて、産地のブランド力向上を図りました。

## 対象の概況

対象組織名	戸
JAみい切花部会	28
JAにじ花部会	27
内 切り枝研究会	13
品種育成志向生産者	—

R7年3月時点

## 活動の内容

### (1) 新品目の産地化

- 【切り枝】・作付品目検討 (R5~6)  
 ・栽培技術研修会 (R6)  
 ・新規作付者の個別巡回支援 (R7)
- 【草花】・栽培技術確立実証ほ設置 (R5~6)  
 ・新品目栽培マニュアル作成 (R5~6)  
 ・新規作付者の個別巡回支援 (R7)

### (2) 産地ブランド力の向上

- ・知的財産権取得支援 (R5~7)
- ・新商品のPR支援 (R5~7)



切り枝新規作付者への個別巡回支援

## 成果

### (1) 新品目の産地化

- 【切り枝】販売金額が増加  
 700万円 (R4) → 1,180万円 (R7)
- 【草花】新たに3品目作付けし、面積増加  
 2品目、22a (R4) → 5品目、51a (R7)

### (2) 産地ブランド力の向上

- ・品種登録出願申請 10件 (R5~7)

	品目名	品種名
鉢花	アジサイ	ビー玉、莓月
	バラ	キスメット、ペチカ
	カッパーグロー	カーナボンテグロー
	アゴニス	ダンスリーフYI
	ウエストリングア	れい酔花園005
	ユーフォルビア	エレガンストリカラーナギ
切花	バラ	R6Red2、R6Pink1

- ・新品種のPR支援 9件 (R5~7)



ジャパンフラワーセレクションにてベスト・フラワー（優秀賞）およびジャパンデザイン特別賞を受賞したアジサイ「ビー玉」

## 今後の取り組み

引き続き有望品目の検討およびその栽培技術の確立と普及により産地育成を図ります。産地ブランド力の向上のため、知的財産権取得支援を行います。

# カキ基幹品種の単収向上と再成園化による産地強化

実施期間:令和5~7年度

管内のカキ産地では、技術向上による「富有」の単位面積当たりの収量の増加を目標に部会活動を行っています。このため、普及指導センターは、初心者向けの基礎技術講習会、部会講習会、技術情報の提供、個別指導などの支援を行いました。

また、老木化により収量が低下した園地を再成園化するために、青年部と連携し主枝再生法を検討しました。

## 対象の概況

JAにじ柿部会 「富有」栽培生産者	418人
JAにじ柿青年部	51人

## 活動の内容

### (1) 基礎技術向上による単収向上

- ・基礎技術講習会の開催
- ・部会講習会の開催
- ・動画資料作成(果樹の匠の技伝承事業)
- ・高収量園地視察研修
- ・園地巡回指導
- ・技術情報の提供(病虫害、生育状況)



### 匠の動画を用いた個別指導

※福岡の果樹匠の技伝承事業で作成した動画による技術指導

### (2) 収量低下園の再成園化

- ・園地再生検討会
- ・新技術実証ほの設置

## 成果

### (1) 基礎技術向上による単収向上

「富有」と「松本早生富有」の基礎技術講習会や部会講習会の開催、技術情報の提供を行い、出荷数量の確保を支援しました。重点支援農家のうち、8割の農家で個別目標を達成しました。

### (2) 収量低下園の再成園化

青年部と連携して展示ほを設置し、主枝再生法のマニュアルを作成、検証を行いました。



基礎技術講習会(冬季管理)

## 今後の取り組み

今後も引き続き、生産者の技術向上のため、初心者向けの基礎技術講習会の開催や個別巡回指導を行います。

併せて、新品種「陽秋」や「秋王」の中間台木の苗木の作付け推進を行います。

# 次世代を担う若手酪農家の育成

実施期間:令和5~7年度

管内には若手経営主及び後継者が多く、営農意識が高く切磋琢磨しているものの知識や技術の習得程度に差があることが課題でした。

そこで、厳しい酪農情勢を乗り切り、今後10、20年と酪農経営を続けていくための礎をつくるため、関係機関と連携し、主に繁殖成績の改善や乳質改善（体細胞数の低減）について支援を行いました。

## 対象の概況

家畜飼養頭羽数調査（令和7年2月1日現在）

	管内の状況	うち重点
農家戸数	62	25
経産牛頭数	3,010	1,421

## 活動の内容

### (1) 繁殖成績の改善

- ・ 獣医師等と連携した周産期飼養管理指導
- ・ 乳成分分析シートを活用した巡回指導
- ・ ICT機器の推進

### (2) 体細胞数の低減

- ・ 搾乳チェックリストに基づく搾乳衛生指導
- ・ 事例調査（搾乳立会、乳頭ロススコア）
- ・ 搾乳作業振り返りシートの策定

### (3) 共通

- ・ ふくおか県酪協との連携会議
- ・ 基礎技術講習会



乳頭ロススコア調査

## 成果

### (1) 繁殖成績の改善

獣医師や家畜人工授精師と連携した個別指導や生産者主体の情報交換も含めた研修会により、周産期管理の意識向上を図りました。その結果、4戸で繁殖成績（初回授精日数）が改善されました。

### (2) 体細胞数の低減

事例調査の結果をもとに講習会を実施しました。乳質の優れた農家の状況と比較して自農場の搾乳衛生を確認できるチェックリストを作成し、それを基に指導を行ったことで搾乳衛生に対する理解醸成が進み、3戸で体細胞数が改善されました。

搾乳衛生チェックリスト			
マーク → 優良農家が必ず実施している項目です！			
優良農家	チェック項目	解説	自農場の実施状況
<input checked="" type="checkbox"/>	ストリップカップ等を使用している	ストリップカップを使用することで、ブツを見つけやすくなり、乳房炎の早期発見に繋がります。また、牛床への乳汁飛散を防ぐことで、雑菌の増殖を防ぎます。	○・×
<input checked="" type="checkbox"/>	前搾りから90秒以内にミルカーを装着している	90秒以内に装着することを強く推奨。それ以上は過搾乳に繋がります。	○・×
<input checked="" type="checkbox"/>	完全に出なくなる前にミルカーを外している	クローの縁を生乳がわずかに伝うくらいで外すことを推奨します。完全に出なくなるまで搾ると過搾乳です。	○・×
<input checked="" type="checkbox"/>	搾乳終了間際に、ミルカーを下に引いたり、乳房を揉んだりしていない	ミルカーを引く行為（マシストリップピンク）は、乳頭口に過剰な負荷がかかりますので、NG行為です。乳房炎以外の牛は完全に搾り切る必要はありません。	○・×

搾乳衛生チェックリスト（一部抜粋）

## 今後の取り組み

飼料価格の高騰等により、依然として酪農情勢は厳しい状況です。引き続き、関係機関と連携して、技術支援及び経営支援を行い、酪農経営基盤の強化を図ります。

## 2 トピックス

### No.1 鳥獣被害対策を関係機関と学ぶ

地域振興課 地域係

#### ◆取り組みの概要

久留米普及指導センター管内では、鳥獣による農作物被害が拡大傾向にあります。

特に昨年度は、ヒヨドリやカモ類による農作物被害が多発したことから、関係機関で組織する久留米地区農業振興協議会では、長岡技術科学大学の山本麻希准教授を講師に迎えて「鳥類の生態と現場で役立つ対策」について生産者を対象とした講演会を開催しました。

講演では、多くの写真や動画等を活用し、農作物に被害を出す鳥の種類や行動パターン、講師が実際に指導した事例、効果的な防止策などが説明されました。

参加者からは、「参考になった」、「すぐにでも取り入れて対策を行いたい」などの意見が出されました。



山本先生による鳥獣被害防止対策研修会

#### ◆今後の取り組み

近年、鳥獣被害に限らず生産に影響する多くの問題が発生しており、適切な対策を取ることが必要となっています。普及指導センターでは、関係機関と連携して情報の収集・周知を行い、安定した営農が継続できるように支援を行っていきます。

### No.2 集落営農組織の広域連携協定締結

地域振興課 水田農業係

#### ◆取り組みの概要

集落営農組織の構成員の高齢化や減少が進む中、農地を永続的に守る仕組みは重要な課題です。そこで普及センターは、関係機関とともに管内の7組織に対して、組織間連携のメリット（不足する人員や機械の補完）を説明し、連携可能な項目について整理しました。その後、代表者に働きかけ協議を重ねた結果、広域連携協定の締結に至りました。



作付計画について話し合う様子



組織代表者との会議

#### ◆今後の取り組み

実効性の高い組織間連携をめざして、今後も関係機関と連携し、各組織代表者と意見調整しながら、発展的な連携組織のあり方について協議していきます。

## No.3 地域一丸で取り組むハウレンソウのべと病対策

野菜花き課 野菜第一係

### ◆取り組みの概要

ハウレンソウのべと病は、一度発生が拡大すると地域全体に被害を及ぼすため、発生させない予防対策をとり、発生初期には感染拡大を抑える必要があります。

そこで、地域一丸となってべと病対策を推進するため、JAや集荷業者などの関係機関とともに「ハウレンソウべと病防除対策会議」を開催しました。

会議では、昨年の状況を振り返った後、べと病の見分け方や農薬の効き方の違いに基づく防除ローテーションなどの基本技術について理解を深めました。さらに、べと病が発生した場合の情報共有方法を確認しました。

出席した関係機関等からは、「べと病かどうかの判断は難しい」「防除ローテーションは重要だ」などの意見が出ました。



防除対策会議を  
関係機関とともに開催

### ◆今後の取り組み

管内のハウレンソウの安定生産のために、関係機関と連携し、引き続き支援を行っていきます。

## No.4 久留米地域「あまおう」合同研修会を開催

野菜花き課 野菜第二係

### ◆取り組みの概要

管内の5JAのいちご部会員が一堂に会し、久留米地域「あまおう」合同研修会を開催しました。この研修会は「あまおう」に関する栽培技術や経営の考え方を学び、所得向上と経営安定を図ることを目的としています。

今回の研修会では、福岡県農林業総合試験場から夏季の高温対策について、専門技術指導員から福岡県内における環境制御の取り組み状況について講演がありました。普及指導センターからは、環境制御による多収・改善事例について報告しました。

質疑では高温対策の被覆資材や新たな作型について質問や意見が寄せられ、積極的に情報が共有されました。



5JAが一堂に会した合同研修会

### ◆今後の取り組み

イチゴの高収量・高品質に向けて、関係機関と連携し生産者への支援を行っていきます。

# No.5 シンテッポウユリの品質向上をめざして

野菜花き課 花き係

## ◆取り組みの概要

昨年度、JAくるめ管内のシンテッポウユリは、生育初期のかん水不足や梅雨時期の葉枯病発生により、出荷量と品質が低下しました。これを踏まえ、今年度は、「かん水のムラをなくすこと」「葉枯病の発生を抑制すること」を主な課題として対策に取り組みました。

具体的には、JA担当者との巡回時にかん水状況を確認し、適切なかん水方法について指導しました。葉枯病対策は、リーフレットや防除案を作成・配布し、事前の注意喚起を徹底しました。

その結果、被害を軽微な範囲に留めることができました。今年度の販売実績では、「A品」の割合が昨年度を大きく上回り、品質の向上がみられました。

**至急確認**


**梅雨時期における葉枯病の防除について**

令和7年6月17日  
JAくるめ・久留米普及指導センター

すでに葉枯病と疑われる症状が発生しているため、至急、下記の防除方法についてご確認ください。

◇シンテッポウユリの葉枯病とは

- ・葉枯病は、降雨が続く梅雨期などの多湿条件で発生する重要病害です。
- ・病原菌の生育適温は20℃前後で、分生子の形成適温は16℃前後です。
- ・風雨により、被害植物などの上に形成された分生子が飛散し、ユリの葉や茎に感染して発病させます。その発病した病斑上でまた分生子が形成され、次々に伝染し、蔓延します。



◇葉枯病・灰色かび病の防除について

【生育中期（草丈15cm以上）以降のシンテッポウユリに活用できる殺菌剤の一例】  
令和7年6月11日 農薬登録情報

FRACコード	農薬名	適用病害	希釈倍数	使用方法
1+10	〇〇〇水和剤	灰色かび病	1000倍	散布
7	〇〇フロアブル	葉枯病	2000倍	散布
19	〇〇〇水溶剤	葉枯病	2500倍	散布

【防除のポイント】

- ・葉枯病菌は非常に薬剤耐性がつきやすいため、同一薬剤を連続使用せず、異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- ・ユリの葉は、薬剤をはじきやすいため、展着剤を活用しましょう。
- ・発病した葉は二次伝染源となるので、早急に取り除き処分してください。

※ 梅雨時期は葉枯病とのたたかいです。降雨前、降雨後には薬剤による防除を徹底しましょう。

## 葉枯病対策のリーフレット

## ◆今後の取り組み

引き続き、現地巡回や講習会の開催等に取り組み、シンテッポウユリの作付けを支援していきます。



## No.6 安全安心な果樹生産をめざして

果樹畜産課 果樹係

### ◆取り組みの概要

農業機械や農薬の適正使用を図るため、安全安心な農業経営の意識改革が課題となっています。そこで、JAにしぶどう部会を対象に「GAP勉強会」を開催しました。

勉強会では、普及指導センターよりGAPの具体的な取り組みを説明し、点検シートを活用した日々の生産管理の見直しを支援しました。さらにJA共済と連携して、VR機器を使用した農作業事故疑似体験を実施し、農作業事故防止の啓発を行いました。



農作業事故VRを体験

GAP 取り組みチェックシート(できていればチェック☑願います)

No.	内容	☑
1	登録のある農薬を使用していますか？	<input type="checkbox"/>
2	農薬を散布する前にノズルやタンク、ホースなどの防除器具を点検し、散布後は通水等により十分に洗浄していますか？	<input type="checkbox"/>
3	農薬を使用するときは、その都度、表示内容(対象作物、使用量、希釈倍数、使用時期、回数、有効期限、使用上の注意)を確認し、表示内容を守って農薬を使用していますか？	<input type="checkbox"/>

GAP点検シート(一部抜粋)

### ◆今後の取り組み

安全安心な果樹産地づくりをめざし、引き続きGAPへの取り組みを支援していきます。

## No.7 第5回福岡県肉用種牛共進会にて躍進

果樹畜産課 畜産係

### ◆取り組みの概要

管内は酪農から黒毛和種繁殖経営に転換した生産者が多く、生産基盤である繁殖雌牛牛群は盤石とは言えない状況でした。そこで、生産者参加型の互評会開催やゲノム等で高評価を得た牛の表彰等により、切磋琢磨する機運を醸成し、個別支援に活かしました。

福岡県肉用種牛共進会ではいずれの回も管内から受賞牛を輩出していますが、特に令和7年度は若雌1区優秀賞第1席、同区第2席及び若雌2区優秀賞第2席を受賞し、受賞頭数が過去最多となりました。



互評会

(右写真共進会にて優秀賞第1席受賞)



第5回福岡県肉用種牛共進会

### ◆今後の取り組み

引き続き繁殖雌牛牛群強化に向けて、生産者に寄り添った活動を行います。

# 3 参考資料

## (1) 受賞実績

**表彰名：第27回全国果樹技術・経営コンクール〈農林水産大臣賞〉**  
**受賞者：株式会社フルトリエ 代表 中村 美紗（久留米市藤山町）**

100年以上続く果樹園の新ブランドとして「フルトリエ」を立ち上げ、ナシ、ブドウ、イチゴの観光農園を軸とした大規模複合経営を展開しています。

園地のバリアフリー化の徹底、直売所やカフェを通じた高品質果実やスイーツの提供、インバウンド来園者のフルーツ狩り予約サイトの外国語対応等、誰もが楽しめる観光農園を実現しています。

さらに、女性従業員の労働環境向上のため、休暇制度や託児スペースを導入し、福利厚生を充実させています。若手育成や地域の空き園地継承等、産地維持にも大きく貢献しています。

このような幅広い視点での取り組みが高く評価され、受賞につながりました。



表彰事業名	賞区分	受賞者	市町
第24回九州シクラメン・洋らん品評会シクラメン	農林水産大臣賞	坂本和盛	久留米市
令和7年度福岡県花き品評会（産物の部）トルコギキョウ	農産局長賞	秋山洋三	久留米市
第17回福岡県乳牛共進会	名誉賞・JC	中島康森	久留米市
第76回日本酪農研究会	努力賞	椿満生	朝倉市
福岡県肉用牛生産者の会共励会（令和7年度第1回）	GC賞	（株）浅野畜産	久留米市
福岡県肉用牛生産者の会共励会（令和7年度第1回）	銀賞	（株）堀内牧場	朝倉市
令和7年度第2回福岡県肉用牛生産者の会枝肉共励会	マーケットニーズ賞	大熊茂成	久留米市
第61回福岡県肉畜共進会	金賞	浅野一美	久留米市
第61回福岡県肉畜共進会	銅賞	（株）堀内牧場	朝倉市
第5回福岡県肉用種牛共進会	優秀賞第1席	（株）堀内牧場	朝倉市
第5回福岡県肉用種牛共進会	優秀賞第2席	上野修司	朝倉市
第5回福岡県肉用種牛共進会	優秀賞第2席	大石昌史	久留米市

## (2) 令和7年の気象

### ●気象概況(気象庁観測地点:久留米)

○平均気温:17.9℃(平年16.8℃)

◆3月31日に極端な低温に遭遇

◆6月下旬から10月中旬にかけて、平年より高い気温が継続

○年間降水量:1,555mm(平年1,938mm)

◆梅雨明けは6月27日で、統計史上最も早い

◆7月下旬から8月上旬にかけて15日間降雨なし

◆梅雨明け後は、少雨・乾燥傾向で推移し、8月10~11日にかけて合計150mmを超える大雨があったものの、積算降水量は平年より低く推移

○日照時間は2,136時間(平年1,964時間)

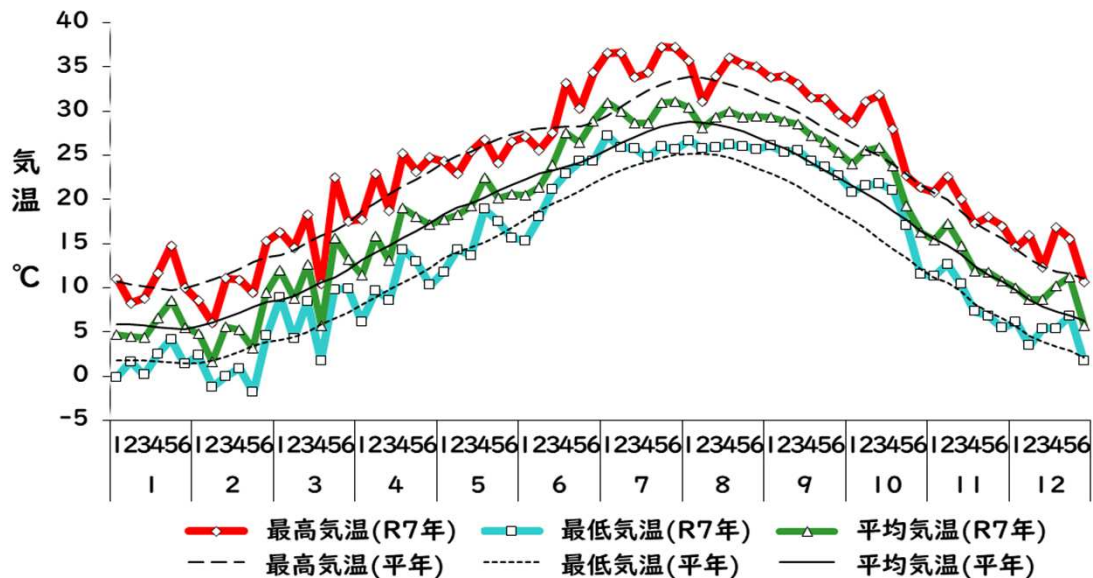


図1 気温の推移

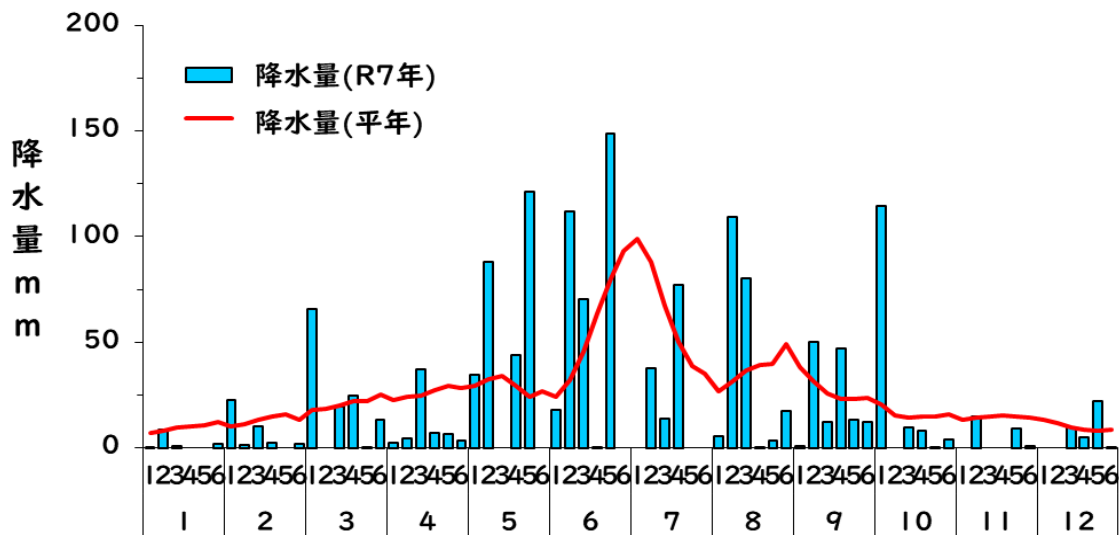


図2 降水量の推移

### ●気象災害対策の発信

- 梅雨時からの大雨・高温を見据えた技術対策 : 令和7年6月 9日
- 高温・少雨に伴う農作物等の技術対策 : 7月 2日
- 長期間の高温に対する農作物等の技術対策 : 8月 1日
- 8月9日から11日の大雨後における農作物等の技術対策 : 8月 12日
- 農作物等の寒害、雪害及び暴風被害防止に向けた技術対策 : 令和8年1月 9日

### (3) 主な展示ほ概要

作物	課題	結果の概要
水稲	環境にやさしい緩効性肥料を用いた水稲「ツクシホマレ」の生育および収量性の検討	環境負荷軽減に対応する被覆崩壊性の高い緩効性肥料を施用した水稲「ツクシホマレ」の生育および収量は慣行肥料と同等であり、普及性は高いと考えられた。
水稲	高温登熟性を有する中山間地域向け水稲品種「恵つくし」の適応性	うきは市の中山間地域において、高温登熟性といもち病抵抗性を有する水稲「恵つくし」の適応性を検討したところ、収量および品質は慣行の「夢つくし」と同等であった。
水稲	環境にやさしい緩効性肥料を用いた水稲「ヒヨクモチ」の生育および収量性の検討	環境負荷軽減に対応する被覆崩壊性の高い緩効性肥料を施用した水稲「ヒヨクモチ」の収量は慣行肥料と比べて14%多く、普及性は高いと考えられたが、年次変動の確認が必要である。
麦	生育調節剤による小麦の倒伏軽減効果の検証	展示区は対照区と比べて稈長が8cm、穂長が0.6cm短く、倒伏軽減効果が高いと考えられた。
大豆	地下水位制御システムFOEASを活用した大豆の乾燥害対策	土壌水分について、地下水位-30cm区は慣行区よりも高く推移した。収量について、地下水位-30cm区は慣行区よりも5%低かった。本年度は乾燥年でなく、適度に降雨があったため、期待した効果が得られなかったと考えられた。
水稲	衛星画像データに基づく水稲の可変施肥試験	衛星画像データから得られる地力マップに基づいた水稲の基肥可変施肥技術を検証したところ、ほ場内の生育量の均一化が図られ、慣行区に比べて収量が向上した。施肥量の減少により、収益性向上につながった。
水稲	殺虫殺菌剤の苗箱処理によるコブノメイガ防除効果の検討	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生もなかったことから、実用可能性が高いと考えられた。
水稲	初中期処理除草剤による水稲の雑草防除効果の検討	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生もなかったことから、実用可能性が高いと考えられた。
コマツナ	「黒色防虫ネット」による害虫侵入防止効果の検証	黒色防虫ネットは慣行の防虫ネットよりコナジラミ類のハウス内への侵入抑止効果が高かった。
コマツナ	防虫ネット(目が長方形)による害虫侵入防止効果の検証	展示防虫ネットは慣行の防虫ネットよりコナジラミ類のハウス内への侵入抑止効果が高かった。
コマツナ	アオムシに対する薬剤の防除効果の検討	展示薬剤は対照薬剤以上の防除効果があり、薬害の発生もなかったことから、実用可能と考えられた。
非結球アブラナ科	非結球アブラナ科のコナガに対する薬剤の防除効果の検討	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生もなかったことから、実用可能と考えられた。
ハクサイ	はくさいのコナガに対する薬剤の防除効果の検討	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生もなかったことから、実用可能性が高いと考えられた。
ハウレンソウ	緩効性一発肥料を用いた施肥適合性の検討	露地ほうれんそうにおいて、国内資源原料(発酵鶏ふん堆肥)と緩効性のハイパーCDUを配合した緩効性堆肥入り肥料による施肥適合性の確認を行った。結果、緩効性一発肥料は、慣行肥料と同等の生育、収量であった。
ハウレンソウ	ハスモンヨトウに対する薬剤の防除効果の検討	害虫の発生がみられず展示薬剤の効果は判然としなかったが、薬害の発生はなかったことから、ローテーションの一剤として実用可能と考えられた。
ハウレンソウ	ケナガコナダニに対する薬剤の防除効果の検討	害虫の発生がみられず展示薬剤の効果は判然としなかったが、薬害の発生はなかったことから、ローテーションの一剤として実用可能と考えられた。
非結球レタス	チョウ目害虫に対する薬剤の防除効果の検討	害虫の発生がみられず展示薬剤の効果は判然としなかったが、薬害の発生はなかったことから、ローテーションの一剤として実用可能と考えられた。
イチゴ	遮熱資材が育苗期の生育に及ぼす影響	苗の根が多く、花芽の分化がやや早くなった。頂果房のバラつきが少なかった。
イチゴ	次亜塩素酸水のかん水によるうどんこ病防除効果	ビニルの雨よけと次亜塩素酸水の散布の組み合わせ試験を行った結果、イチゴのうどんこ病および炭疽病の発生は雨よけ栽培区で少なかった。
イチゴ	バイオスティミュラント資材が苗の生育に及ぼす影響	夏季の高温が激しく、結果は判然としなかった。

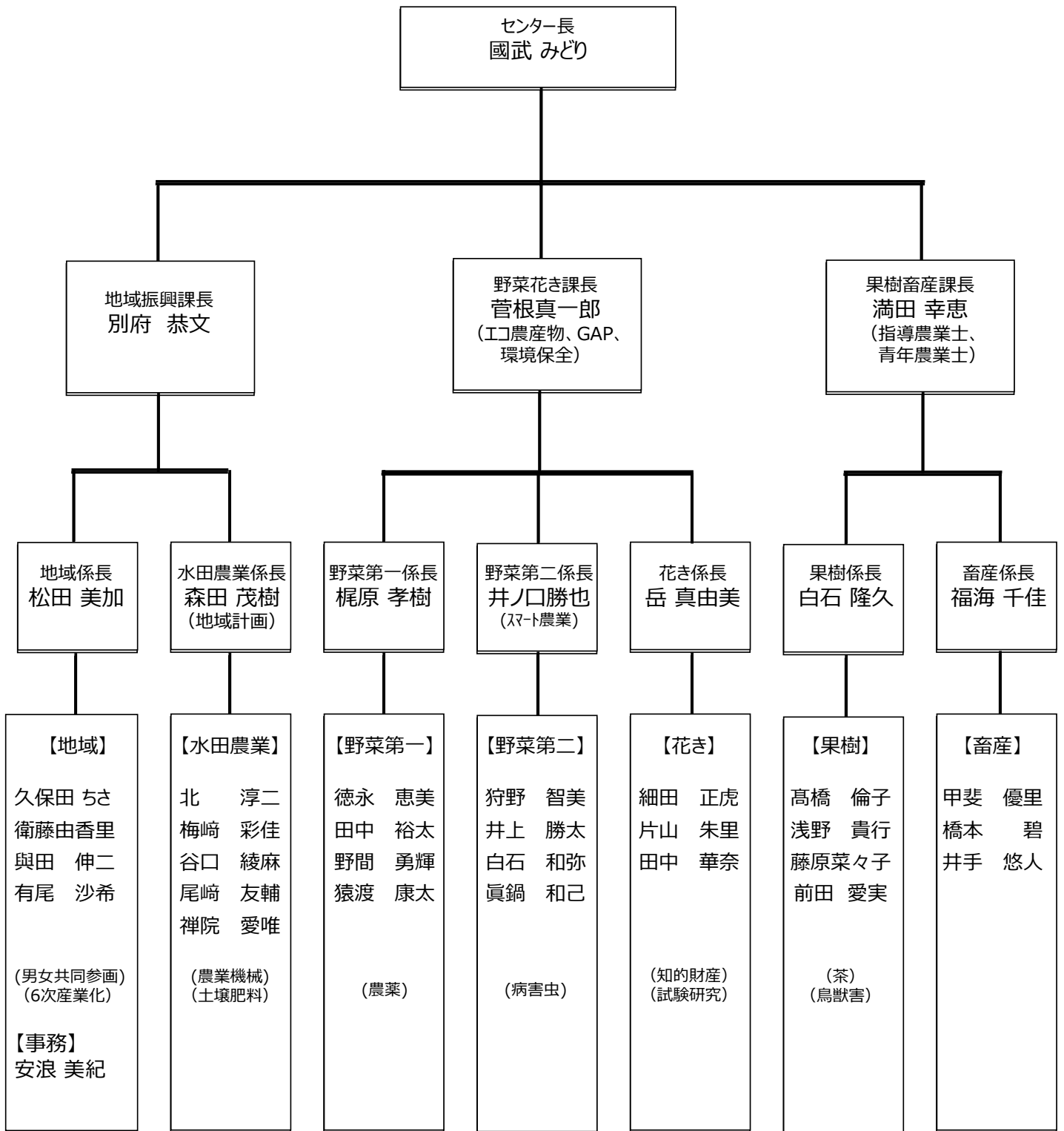
作物	課題	結果の概要
キュウリ	うどんこ病に対する薬剤の防除効果	試験薬剤のうどんこ病に対する防除効果が認められた。
キュウリ	炭酸ガス局所施肥による増収効果の実証	施用開始が遅く、明らかな増収にはならなかったが、草勢の維持がみられた。
花き	夏季におけるキクの施設内温度上昇抑制のための遮光資材の実証	施設内の地温が低下したことで、苗の発根が促進され、育苗時と定植後の枯死率が減少した。
花き	白色LED照射による切り花カーネーションの安定生産技術の検証	収穫開始日、調製切花長および切花重は、慣行の赤色LED照射区と同等で、下垂度（茎の強度を示す、低い方が強い）は、白色LED照射区が低かった。産地の主力スプレー品種への白色LED照射は、赤色LED照射と同等の開花促進効果があり、茎の強度を高めることを確認できた。
花き	トルコギキョウにおける赤色LEDによるアザミウマ類の防除効果の検証	赤色LED設置区のアザミウマ類捕虫数は、栽培期間を通して対照区よりも少なかったが、新芽の萎縮や花弁の吸汁痕の被害は対照区と同等であった。
花き	トルコギキョウにおけるフェロモン剤によるヤガ類の被害防止技術の実証	ヤガ類による被害株率は、フェロモン剤設置区、対照区ともに全調査期間を通して1%未満と極めて低い水準で推移したため、フェロモン剤の効果は判然としなかった。
花き	紫外線(UV-B)照射によるバラのうどんこ病防除効果の実証	UV-Bの照射距離が最も遠い弱光区では、うどんこ病の発症数が最多となった。一方で、UV-Bの照射距離が最も近い強光区では、発症数が最少となった。
花き	シクラメンの灰色かび病に対する薬剤の防除効果	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果が認められた。
ナシ	「玉水」の果実肥大促進に向けた新梢管理技術の検証	GA処理と新梢誘引を併用した区において、果実肥大促進効果が認められた。
ナシ	「玉水」における堆肥の局所施用処理が果実品質に及ぼす影響	処理による細根増加、果実肥大促進を試みたが、効果は判然としなかった。次年度も試験を継続する。
ナシ	「幸水」における果肉障害軽減対策の検討	タコツボ耕、カルシウム資材散布処理の有無による果実品質の違いやみつ症の発生はみられず、効果は判然としなかった。
ブドウ	「巨峰」の植物調節剤処理による着色促進効果の検証	処理による着色促進効果が認められた。熟期（糖度、酸含量）促進効果はないため、取扱いには留意が必要である。
ブドウ	「シャインマスカット」におけるスコアリング処理が果実品質に及ぼす影響	果粒軟化期以降（満開後50日および70日）に主幹部へのスコアリング処理を実施したが、果粒重と糖度に著しい変化はみられず、果実品質への影響は判然としなかった。
ブドウ	べと病に対する薬剤の防除効果	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果が認められた。
イチジク	ショウジョウバエに対する薬剤の防除効果	展示薬剤の防除効果については判然としなかったが、薬害及び薬剤による汚れの発生が認められなかったことから、実用可能と考えられた。
イチジク	遮熱剤利用による高温障害対策の検証	遮熱剤の利用により、ハウス内の最高気温が低下した。また展示区の果実重は慣行区よりも大きく、L以上割合が増加した。
カキ	炭疽病に対する薬剤の防除効果	展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果が認められた。
青刈りミレット	省力化栽培技術による生育及び収量性の検討	不耕起区は耕起区と比べ草丈は17%高、乾物収量は11%高で、普及性は高いと考えられた。
青刈りトウモロコシ	新品種「凄夏」の生育及び収量性の検討	新品種は慣行品種と比べ草丈は6%高、乾物収量は19%高、うち、子実の乾物収量は27%高で、普及性は高いと考えられた。
肉用牛	天敵（寄生蜂）による吸血昆虫（サンバエ）の防除効果	試験剤（天敵製剤）のサンバエに対する防除効果は認められたものの、効果が発現するまでに2か月程度を要した。

## (4) 普及指導センター活動情報一覧

普及指導センターがホームページなどで提供した資料です。

番号	内容	担当係	発信日
1	和牛改良組合共進会・講習会を開催	畜産	4月18日
2	栽培推進品目パンフレットを作成	地域	5月7日
3	ぶどうの房作り体験教室が開催されました	果樹	6月2日
4	「秋王」の結実安定に向けて環状剥皮を実施!	果樹	6月12日
5	ホワイトコーン出荷目合わせ会開催	野菜第一	6月17日
6	大豆新品種「ふくよかまる」の播種前研修会を開催	水田農業	6月20日
7	ブドウ「優良系巨峰」の現地検討会を開催!	果樹	7月25日
8	新規就農担当者会議を開催	地域	8月6日
9	シンテッポウユリの安定出荷をめざす	花き	8月18日
10	営農基礎講座(経営編)を開催	地域	8月29日
11	ほうれんそうの夏季安定生産をめざして	野菜第一	8月29日
12	働きやすい農業の仕組みづくりについて学びました	地域	8月27日
13	鳥類の生態と被害対策を学ぶ	地域	8月29日
14	「こまつな」の一年を通じた安定出荷に向けて	野菜第一	8月29日
15	暑さに負けない水稻づくりをめざして	水田農業	9月11日
16	久留米地域「あまおう」合同研修会を開催	野菜第二	9月16日
17	「あまおう」栽培技術の早期習得をめざして	野菜第二	9月17日
18	夏季の周産期管理研修会を開催	畜産	9月30日
19	水稻の可変施肥試験を実施	水田農業	10月2日
20	鳥獣害対策の先進事例を調査	地域係	10月30日
21	高品質な大豆の収穫を目指して	水田農業	11月13日
22	地域農業をけん引する生産者をめざして	4H活動 推進	12月24日
23	トルコギキョウのヨトウムシ類防除効果の実証	花き係	12月24日
24	地域一丸となったべと病対策	野菜第一	12月26日
25	キャベツの現地巡回・講習会を実施	野菜第一	12月26日
26	酪農青年部講習会・意見交換会を開催	畜産	1月14日
27	電照菊における高温対策試験結果を確認	花き	1月14日
28	キュウリ環境データ活用研修会を開催	野菜第二	1月20日
29	農家のための事業承継セミナーを開催	花き	2月4日
30	生産組織リーダー研修会を開催	水田農業	2月18日
31	久留米地区女性農村アドバイザー研修会を開催	地域係	2月19日
32	イチジクにおける高温対策試験結果を報告	果樹	3月18日

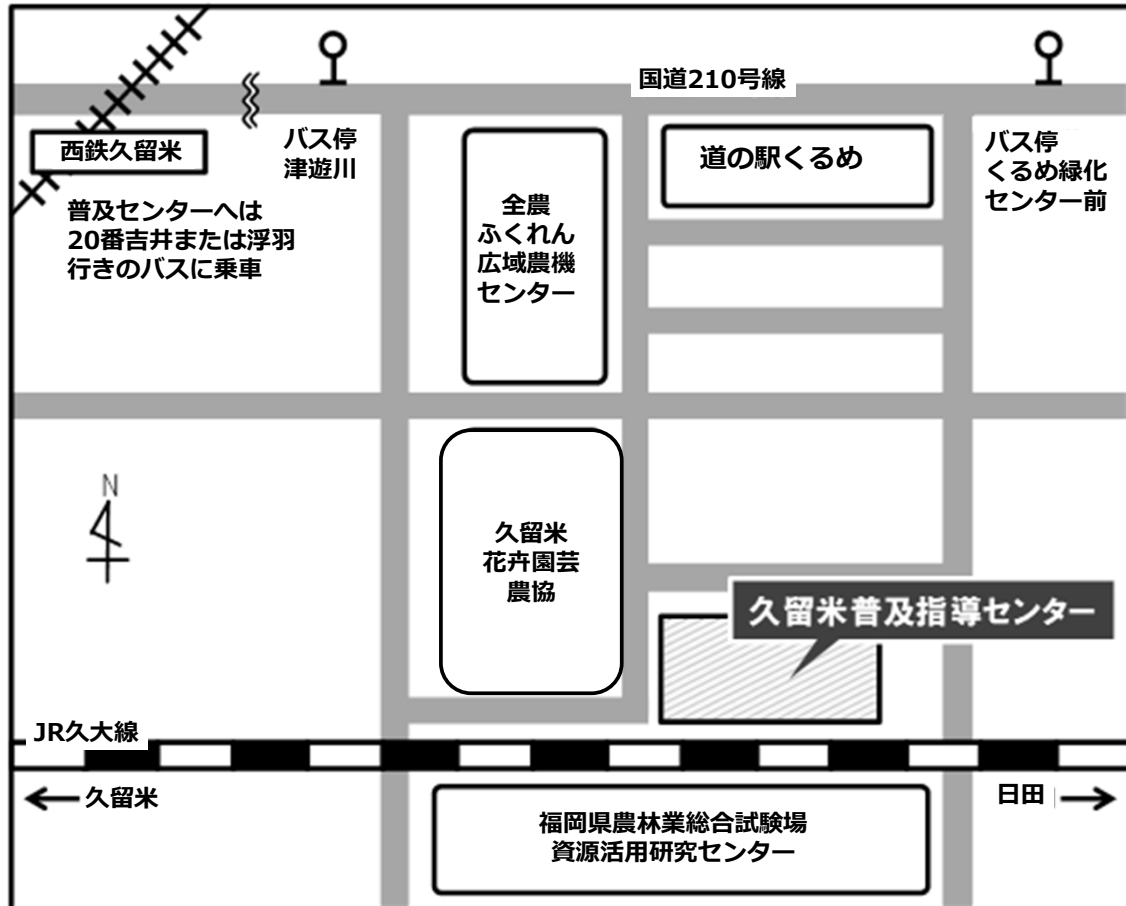
# (5) 普及指導センターの活動体制



注：( ) は窓口業務  
畜産係は朝倉普及指導センター管内を含む広域活動

# 福岡県朝倉農林事務所久留米普及指導センター

## ● アクセス



交通 西鉄バス 津遊川下車、徒歩10分  
久留米ICから車で15分

所在地 久留米市山本町豊田1506-19

電話 0942-47-5101

FAX 0942-47-5105

### 福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703224
登録年度 07	登録番号 0001